

【問題A】

【問1】 3桁での計算を基本とする。0年と15年の比較 総数は0年の100に対し15年は103 人数比較では15年の割合を3%加えて比較

- 1 【×】 工学0年100で18, 15年は3%加え $15 \times 103 = 15.2$ その割合は $15 \div 18 = 5/6 \Rightarrow 83$
- 2 【×】 同じ年の中の比率は他の年に影響しない
 $2.8/33 < 3.5/40 \Rightarrow 3.5/40 = (2.8+0.7) / (33+7) \therefore 7/7$ を加えた後者が大
- 3 【×】 $11 \times 1.03 - 5.3 = 6.1$ $2.9 - 2.7 = 0.2$, 35倍は7.0
- 4 【○】 入学者数の割合を用いて減少率は, 社会 $(33.6 - 40.2) / 40.2 = 16.4$, 人文 $(14.5 - 16.4) / 16.4 = 11.6$
- 5 【×】 15年社会は 33.6, 0年社会の0.9倍は $40.2 \times 0.9 = 36.2$

【問2】 選択肢を見て, 問1と異なるものを検討

- 1 問1肢3と同じ【×】 2 問1肢5と同じ【×】 3 問1肢1と同じ【×】
- 4 問1肢4との違いは, 「大きい」が「小さい」であり, 問1肢4が【○】だから【×】
- 5 問1肢2との違いは, 「上回っている」が「下回っている」であり, 問1肢2が【×】だから【○】

【問題B】

【問3】

具体的人数					1+2
A	64	48	56	32	112
B	150	38	44	58	188
C	100	56	164	80	156
D	136	248	148	272	384

【問4】 略

【問題C】

【問5】 グラフは指数であり, 年ごとの変化を見ることはできるが, 国の間では生産高の比較はできない。

- 1 【×】 国の間では生産高の絶対数比較はできない。
- 2 【×】 肢1と同様, 絶対数比較はできない。
- 3 【○】 増加率は同じ傾きであれば規模の小さい方が大きい。Dが傾き最大であるがCが規模小さいから, グラフから数値を読み取り検討。Dは $125 - 116 = 9$, Cは $119 - 114 = 5$ $9/116$ と $5/114$ は, 前者が大
- 4 【×】 増えていることは分かるがその増え方が1.3倍以下かどうかはわからない。A国は1.3倍を超えており, 規模が他の国と比べものにならないくらい大きければ, 1.3以上となることがある。
- 5 【×】 絶対数は比較できない。A国の比率が他国より格段に高ければ96年は多くなる。

【問6】 1 【×】 問5肢3との違いは, 「D国」が「A国」であり, A国の増加率はD国に及ばない。

- 2 【○】 問5肢5との違いは, 「4カ国」が「C国とD国」であり, C国は94年より減

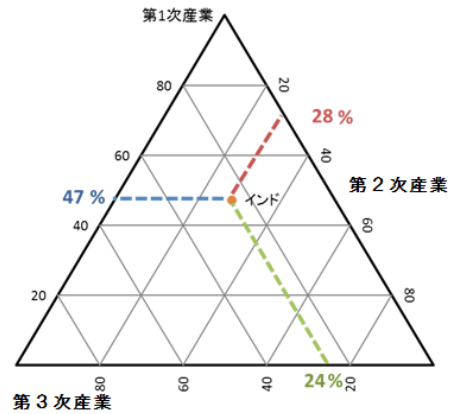
- 少, D国も減少 ゆえにC国とD国を合計しても減少
 3 【×】問5肢4と同じ 4 【×】問5肢2と同じ 5 【×】問5肢1と同じ

- 【問7】全体観察力が問われる。問5との変更点は、肢の順番入れ替えのみ
 1 【×】問5肢4と同じ 2 【×】問5肢5と同じ 3 【×】問5肢2と同じ
 4 【×】問5肢1と同じ 5 【○】問5肢3と同じ

【問題D】

【問8】三角グラフは、頂点が100%となるように配置する。比率であるから絶対数比較はできない。

- 1 【×】第一次の50より下の国は、FGH BIA Jの7か国
 2 【×】第二次の40以上は、40の左下がりの線より右だから、JAの2か国
 3 【×】第三次の30以下は、30の左上がりの線より右だから、HA DEの4か国
 4 【○】同じ国であれば絶対数の比較は可能だから、A国の第一次は24%、第三次は24%
 5 【×】国の中で絶対数比較はできない。



- 【問9】
 1 【○】問8肢5との違いは、数が比率になっており、比率は比較可能である。B国の第三次は54%、C国の第一次は54%でほぼ等しい。
 2 【×】同じ国の中では比較可能 A国の第一次は24%、第二次は54%
 3 【×】問5肢1の変形 BIAJの4か国
 4 【×】問5肢3の変形 全ての国
 5 【×】問5肢2の変形 AJを除く8か国

【問題E】

【問10】

① 【○】 $\frac{1952}{2022} = \frac{1949+3}{2019+3} \Rightarrow$ 分子と分母に同じ数字を足せば全体は大きくなる。

野球の打率で例えば、297打数89安打では2割9分9厘であり、あとの打席だけで3割以上の成績であれば3割を超える。1/1, 1/2, 1/3のいずれでも3割以上となる。

② 【×】後者は $\frac{1176+108}{3139+333}$ と表せ、 $\frac{1176}{3139}$ を3桁で表した $\frac{118}{314}$ と $\frac{108}{333}$ を比較すると後者は分母が大きく分子が小さいから全体として小さくなる。よって小さいものを加えても小さいままである。

③ 【○】9,800円の1割引は、 $9800 - 980 = 8820$ 円 で消費税別で買うと9702円、消費税込みの定価で買うと9800円だから、前者の方が98円安い